

## ④5 首里城正殿 見せる復興 ～今しか見られない復元現場を出張所一丸となってPR～

受賞機関 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所 首里出張所

**キーワード** 首里城、見せる復興、職員の創意工夫、DXの活用

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

首里城正殿の見せる復興の取組。首里城の復元事業を「今しか見ることができない」機会と捉えPRすることで、事業の効果的な理解促進に加え、復元工事中から観光、地域の振興にも寄与している点や、学生との連携、来園者の参画など、復旧事業段階だけでなく、事業完成後の施設の運営をにらんだ戦略的な取組となっている点が評価された。

### 1. はじめに

火災により焼失した首里城正殿の復元過程そのものを観光資源として公開する「見せる復興」。その効果をより高めるため、出張所職員の創意工夫と行動力により、SNSによる広報、首里城オリジナルのボランティアプログラムの開発など様々な取組を紹介する。

### 2. 事業の概要と成果

#### 1) SNS等を活用した若い世代への発信

正殿の復元過程をYouTube「首里城正殿に会いたくて」で公開した。職員自ら出演し事業紹介等、令和4年6月からの1年半で29本の動画をアップし、再生回数は累計1.6万回を超え、事業の理解促進や来園のきっかけづくりに寄与した。また県内4高校の写真部の学生が復元現場の今を撮影する「沖縄の学生×首里城 写真でつむぐ復興への想い」を企画し、写真を園内・HPで公開した。首里城になじみの薄い学生が復元事業や沖縄の歴史・文化に興味を持つきっかけとなった他、作業員にスポットを当てたことで現場のモチベーション向上にもつながった。



園内での写真展（動画でも紹介）

#### 2) 職員による手作りできめ細かな事業紹介

原寸場の見学デッキの完成後、中での作業が半年以上なく、見せるものが何もない状態が続くため、職員自らがモデルとなり作業の様子をイメージしたポーズを写真に収め、所内投票を経て自主制作の等身大パネルを展示した。過去の復元作業のモニター映像と併せて、これから始ま

る作業のイメージを紹介し、また木材加工の伝統技術を解説したパネルや正殿完成までの復元工程を分かりやすく伝えるパネルを手作り（ラミネート加工）で作成した。多くの来園者が足を止め、事業の理解促進につながった。



原寸場の見学デッキ 等身大パネルの設置

#### 3) 火災の遺物を正殿の復元材料として蘇らせるボランティアを企画・実施

首里城復元の力になりたいという来園者の想いを形にするため、火害を受けた瓦や石材を細かく砕き、正殿の復元材料として再利用することを所内で検討した。安全かつ効率的な粉碎方法を試行錯誤し、首里城正殿赤瓦シャモット製作や漆塗り原料“ニービの粉”製作イベントを開催し、累計約4.2万人が参加した。また、特別支援学校の先生からの「首里城訪問が難しい子供たちにも体験させてあげたい」との要望に応え、職員が学校を訪問して器材の貸出や実施方法を調整し、石を砕く体験や柱加工の際のヒノキのカンナくずを触る体験等を実施し、生徒や親に喜ばれた。

#### 4) DXを活用した分かりやすい展示・説明

年間145件（令和5年実績）の行政視察対応において、限られた時間で事業内容をより分かりやすく伝えるため、設計BIM等をもとに復元後の正殿をデジタル構築し、説明資料として活用した。建物下の見えない遺構や完成後の正殿の断面等、デジタルならではの画像と現在の状況を比較説明することで「視覚的に理解しやすい」という多くの声につながった。

### 3. おわりに

今しか見ることができない首里城正殿の復元をどうすれば分かりやすくPRできるかを職員一人一人が自発的に考え、現場で実行し、デジタル・アナログと様々な手段を駆使して「見せる復興」を展開してきた。引き続き、事業の効果的な発信に努めていきたい。

賛助会員 (株)建設環境研究所、日本工営(株)、(有)西原農園、本部造園(株)